［3］現代文問題の解き方［例題］文章の構造・主題

❶男性支配的な性別分業のあり方を日常の暮らしの次元から考え直そうとするとき、よく言われるように「男女平等に」でいいのでしょうか。

❷若い頃、私は同じ社会学研究者の友人からよくこうした言葉を聞きました。「私は女性問題も理解しているし、妻の苦労もよくわかる。だからこそ私は妻ときちんと平等に家事を分担しているんだ。」と。こう語る友だちは、自分のしていることをどこか誇らしげに語っているようにも見えました。

❸実は私は、にをつけながら、友人の話を聞いていたのです。ふーん、平等に家事を分担ねぇ、今の世の中、男女が平等に暮らせるようにできていなのだから、家事だけを平等に分担すれば、それであなたと奥さんの関係は対等なのかねぇ、と。④でもそのことを言えば、相手は気色ばんで反論してきそうな感じなので、「そうですか、家事分担は男女関係を考える重要なきっかけだし、それはいいですね。でも家事分担だけ平等にしても、仕方ないしね。」と、相手の努力は認めながら、ちょっとばかりからかっていたのです。

❺なぜからかってみたくなったのでしょうか。⑥友人の言葉には家事分担をめぐる「形式的平等」と家事分担という「いいこと」をしている自分を評価してほしいという、いわば自分の姿への承認欲求がにじみ出ていたからです。

❼家事や育児、教育、介護など「ひと」をつくり「ひと」を世話する重要な労働をパートナーと分担することは必須です。⑧でも「私はこれをするから、あなたはこれをして。」という分担や「それぞれの生活時間のうち同じ時間だけ家事にあてよう。」という形式的な分担だけでは、お互いがどのように一人の人間として働き、生きていきたいのかを考え、互いに配慮し、共に模索し、協働していくという「実質的な平等」、「対等な関係」をめざす暮らしは実現できないからです。

❾では、共に暮らしたいと思うパートナーと「実質的な平等」をつくりあげるには、どうしたらいいでしょうか。⑩こうすればいいという定番で典型的なマニュアルなどないと私は思っています。⑪そうではなく、私たち一人一人が、目の前にいる親しい他者であるパートナーとどのような関係をつくりあげるのかを常に考え、自分の生活の場で、実質的な不平等や抑圧をできるだけ無効なものにしようと絶えず試行錯誤し、模索していくという営みこそが重要ではないでしょうか。

（『「今、ここ」から考える社会学』）

原文

❶男性支配的な性別分業のあり方を日常の暮らしの次元から考え直そうとするとき、よく言われるように「男女平等に」でいいのでしょうか。

❷若い頃、私は同じ社会学研究者の友人からよくこうした言葉を聞きました。「私は女性問題も理解しているし、妻の苦労もよくわかる。だからこそ私は妻ときちんと平等に家事を分担しているんだ。」と。こう語る友だちは、自分のしていることをどこか誇らしげに語っているようにも見えました。

❸実は私は、にをつけながら、友人の話を聞いていたのです。ふーん、平等に家事を分担ねぇ、今の世の中、男女が平等に暮らせるようにできていなのだから、家事だけを平等に分担すれば、それであなたと奥さんの関係は対等なのかねぇ、と。④でもそのことを言えば、相手は気色ばんで反論してきそうな感じなので、「そうですか、家事分担は男女関係を考える重要なきっかけだし、それはいいですね。でも家事分担だけ平等にしても、仕方ないしね。」と、相手の努力は認めながら、ちょっとばかりからかっていたのです。

❺なぜからかってみたくなったのでしょうか。⑥友人の言葉には家事分担をめぐる「形式的平等」と家事分担という「いいこと」をしている自分を評価してほしいという、いわば自分の姿への承認欲求がにじみ出ていたからです。

❼家事や育児、教育、介護など「ひと」をつくり「ひと」を世話する重要な労働をパートナーと分担することは必須です。⑧でも「私はこれをするから、あなたはこれをして。」という分担や「それぞれの生活時間のうち同じ時間だけ家事にあてよう。」という形式的な分担だけでは、お互いがどのように一人の人間として働き、生きていきたいのかを考え、互いに配慮し、共に模索し、協働していくという「実質的な平等」、「対等な関係」をめざす暮らしは実現できないからです。

❾では、共に暮らしたいと思うパートナーと「実質的な平等」をつくりあげるには、どうしたらいいでしょうか。⑩こうすればいいという定番で典型的なマニュアルなどないと私は思っています。⑪そうではなく、私たち一人一人が、目の前にいる親しい他者であるパートナーとどのような関係をつくりあげるのかを常に考え、自分の生活の場で、実質的な不平等や抑庄をできるだけ無効なものにしようと絶えず試行錯誤し、模索していくという営みこそが重要ではないでしょうか。

（『「今、ここ」から考える社会学』）

好井裕明（よしい　ひろあき）

一九五六年～。大阪府生まれ。社会学者。東京大学大学院社会学研究科博士課程。京都大学文学博士、日本大学文理学部教授。専門は社会学。

問1　上の文章は評論文ですか。随筆ですか。（25点）

文章の書き方には、三つのスタイルがあります。

１　思いつくままに書く。

…日記・（私的な）メール文

２　サンプルとなる型を利用して書く。

…あいさつ文・通知書・手紙文・報告書

３　アウトライン（＝「設計図」）を作って書く。

…評論文・随筆・小説・説明文・論説文

発展１　「評論文」と「随筆」「小説」との違いは。

　文章中の主題・主張の表れ方にあります。

　文章に強く表れる　→　隠れて表れにくい

　評論文・論説文　→　随筆　→　小説

■解答は、（　　　　　）です。

アウトラインＡ～Ｅを本文で見てみましょう。

［本文中の記号表記］

　Ａどんな題材（題目）・話題で　→ 　男女の家事分担

　Ｂどんな主題で　　　　　　　　→ 　…が重要ではないか

　Ｃどんな内容構成で　　　　　　→ 　筆者の身近な体験談で

　Ｄどんな組み立てで　　　　　　→ 　逆接　でも

　　　　　　　　　　　　　　　　→ 　対比

　　　　　　　　　　　　　　　　→ 　同意

　Ｅどんな表現で　　　　　　　　→ 　読者に興味を持たせる

問２　筆者の主張が最もはっきりと書かれている文は❶～❾（段落頭）、④～⑪のうち、どれですか。番号で書きなさい。（25点）

文章中で最も筆者の主張や意見が明確に述べられている文＝主題文

「主題文」があるのが評論文・論説文・説明文の特徴です。

ここに注目！主題文の文末の語句

～べきだ。～する必要がある。～しよう。

～しなければならない。～である。…が重要だ。

本文中で明快な「意見の表明」は④・⑧・⑪。そのうち右の文末語句に支えられている文は……

■解答は、（　　　）です。

発展２　「話題」と「主題」とは違うのか。

違います。関係・仕組みは次のとおりです。

題目＋述語ａ

　　　↓

　話題　＋述語ｂ

　　　↓

　主　題　＋述語ｃ＝主題文

④・⑧・⑪の本文で見てみましょう。

④　題目＝男女の家事分担

⑧　題目＋述語ａ＝男女の家事分担（は）ａ実質的な平等をつくりあげること。

　　　　↓

　話題　＋述語ｂ＝男女の家事分担は実質的な平等をつくりあげること。（そのためには）ｂ試行錯誤し模索していくこと。

　　　　　　↓

⑪　　主　題　＋述語ｃ＝男女の家事分担は実質的な平等をつくりあげること。そのためには試行錯誤し模索していくことｃが重要だ。＝主題文

【解答】

問1　評論文　　25点

問2　⑪　　25点